

2016年 2月 日

## プロジェクト報告書

団体名 自然観察活動チーム Wild Lives Watchers

### ▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度、写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

### 1. プロジェクト名

カヤネズミの生態調査研究及び普及啓発への利用

### 2. プロジェクトの目的とその背景 300文字まで

社会的に自然環境への意識が高まりつつある中、関西の淀川流域、関東の西多摩地区をはじめとして、日本ではカヤネズミの調査研究及び彼らが生息する草地環境の保全活動が大きく取り上げられつつあります。その背景において、東京近郊では、多摩川における河川改修や草刈りなど野生動物に影響を与えうる事業が各所で実施されており、それらが野生動物の住みかみに大きな影響を与える可能性が高いことを感じていました。今回のプロジェクトは河川管理に対して考慮すべき草地環境の保全についてカヤネズミを視点に切り込んでいき、それらの重要性とその現状を一般に向けて啓発することを目的としました。

### 3. プロジェクトの内容 300文字まで

活動の主体はカヤネズミ観察会の開催、観察会開催ともなう定期的な現況調査の2項目です。カヤネズミ観察会に関しては、年1回(冬季 = 非繁殖期)の実施とし、付随する現況調査に関しては7月下旬~8月、11月~12月上旬のカヤネズミの繁殖期直後に、選定した一定の調査地区内を対象に実施するものとししました。観察会では、個体に配慮した特殊なプログラムをメインに、カヤネズミを包括する草地環境の重要性を広い視野で観察することを目的としました。また、観察会はカヤネズミの繁殖に影響を与えないよう配慮するため冬季の非繁殖期に開催しました。現況調査では、観察会にむけた綿密な現況把握の他、プログラムに生かすことのできる多くの情報取得を目的としました(例えばカヤネズミの時季特有な行動事例、現地内にある営巣地の把握など多岐にわたる)。

### 4. プロジェクト実施にあたっての工夫点とその効果 300文字まで

現況調査においては、カヤネズミの繁殖への影響を最大限回避すべく調査時期を繁殖期直後に設定しました。また、現地において万が一繁殖利用している可能性のある巣を発見した際にはその巣の直近には近づかないように工夫しました。しかし、調査地域直近で大規模な改変工事が開始され、一部は草刈りなどが実施されました。これにより草刈りが行われた営巣地は消失、自動撮影装置でも草刈りが行われた3日前後に個体の引越し行動が確認されました(引越し行動=繁殖利用中、営巣地周辺で何らかの影響があった場合にとる行動)。これに関しては事業による影響が示唆されるため、今後追及していくつもりです。

観察会の実施面においては、現況調査同様に繁殖期を外すことで個体への影響を回避し、特に参加者へは古巣(利用後の巣)を観察してもらうことで理解を深めてもらいました。これによりカヤネズミの繁殖に影響を与えずに済んでいます。

観察会の準備段階においては、多摩川近隣あるいは住まいの周辺に河川などがある住民を対象に実施し、内容においてもできるだけ近隣の河川草地に置き換えて考えてもらい、より身近に感じてもらうことができました。

また、カヤネズミの生息環境である「草地環境」の重要性に焦点をあてて理解を深めてもらうことを目的としていたため、カヤネズミのみの解説にとどまらず、取り巻く様々な動植物についても説明を行いました。

これらのことにより、カヤネズミをはじめとした多摩川における河川草地の重要性をより深く、広く理解してもらうことに成功したと考えられ、参加者からも数々の御礼のお言葉をいただきました。

#### 5. 全体的所感、終了しての感想など 300文字まで

全体としては、調査対象とした多摩川中流域のカヤネズミの現状を把握できるデータが得られ、それらをうまく近隣住民を中心に伝えることができたと思っています。ただし、得られたデータ数はまだ少なく、継続してデータを取得するとともに、モニタリングを実施して動向を追求する必要があると思われます。啓発面に関しても近隣住民が主体となっており、より広い層の人達に伝えていく必要があるものと思われます。

細部に関して、現況調査では断片的なデータにとどまっている現状にあります。今後はここで得られたデータを元により詳細な調査を進めていくつもりです。今後取得していく詳細なデータは、集約することで河川改修事業など事業者に対する明確な保全対策の提言につながっていきます。

観察会では、現況調査で得られた様々なデータをうまく活用することで効果的に啓発ができたと思っています。

特に現況調査時に発生した河川改修事業は、それこそ大きな問題ではありますが、カヤネズミの生息する河川草地環境が消失することでどういった影響が出るのか、より直接的に参加者に伝える良い機会となりました。

今後は、今回得られたデータ、経験を元により詳細な調査研究を実施し、一般に向けて広く啓発するとともに、特に事業者への保全対策の提言を目標にしていきたいと考えています。

#### 6. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動風景の写真を参考資料として提供してください。	参考資料あり
---	--------

## カヤネズミ、知っていますか？

### ～多摩川の自然と河原の珍獣を追って～

東京都を代表する一級河川「多摩川」。空港や住宅地、そして山々へと連なるこの河川には、古くから様々な野生生物が暮らしています。

そのひとつ、「カヤネズミ」。彼らは河原の背丈の高い「茅原」に暮らす「日本一小さなネズミ」。彼らを中心として広がる自然の豊かさと、河原の世界と一緒に覗いてみませんか？

【日時】 2015年11月15日(日)

13:00～11:00 ※野外への移動は電車及び徒歩を予定しています。

【集合】 RISURUホール(立川市市民会館) 第6会議室

【開催場所】

部屋でちょっと勉強：RISURUホール 第6会議室

河原散策：立日橋下河川敷周辺

【必要な道具】

歩きやすい服装(長袖、長ズボン)、雨具(折り畳み傘可)、防寒具、水分  
※現地ではゆっくり散策をします。歩きやすく、身軽な格好でお願い致します。

【参加費用】

お一人様 1,000円(お菓子代、資料代含む)

※小雨の場合は決行予定。

【インストラクター】

自然観察活動チームWLW代表

井上 太志(野生生物の調査研究や普及啓発活動を各地で実施)

※補佐：森田佑介(鳥類専門)、関谷駿(木工専門)

【当日スケジュール】

13:00 RISURUホール第6会議室にて受付開始

13:10 室内にて多摩川とカヤネズミちょっとお勉強会

13:40 おやつをつまみながらお話し会

14:20 河川敷へ移動

(ホール⇒バス⇒立川南⇒モノレール⇒柴崎体育館⇒徒歩⇒河川敷)

15:00 多摩川河川の草地周辺を散策

16:00 まとめ、現地解散(駅方面はバス)

【緊急の連絡先と対応】

近隣には病棟が複数あり、スタッフ内でも緊急で稼働できる車両を1台準備して御座います。万が一の際には対応可能ですのでお申し付けください。

井上：090-9887-1787、cometonbo@gmail.com

主催：自然観察活動チーム Wild Lives Watchers

助成：宗教法人真如苑 市民活動助成